

## 『第4回東海ロボット泌尿器科シンポジウム』で 実績ある病院として講演



2012年4月にロボット支援下前立腺全摘術が新しく保険適用になりました。ちょうど1年が経過しましたので、現在の状況を報告させていただきます。

当院では保険適用になる前の2011年10月に、先駆けて手術支援ロボット『ダヴィンチS』を導入しました。当初は保険外診療として手術を行い、ノウハウを積み重ねてきました。保険適用になってからも、積み重ねたノウハウを生かして患者さんに最善の医療を提供できるよう努めてきました。その成果が認められ、2013年3月1日に開催された『第4回東海ロボット泌尿器科シンポジウム』にて講演の機会をいただきました。これもひとえに当院での治療を選択してくれた患者さんのおかげだと感謝しております。

『第4回東海ロボット泌尿器科シンポジウム』には90名以上の泌尿器科医が集まりました。愛知・岐阜・三重・静岡の最先端病院の医師たちはもちろんのこと、京都など関西地区からの参加もありました。今、最も注目されている治療だということがうかがえました。講演は、私を含め東海地区の実績ある泌尿器科医によるものと、海外から招請した世界有数の医師によるものの2本立てでした。当院でおこなっている「患者さんの負担をできる限り少なくする工夫(腹膜外到達法、術後合併症である単径ヘルニアの予防法など)」は、世界中でもまだ報告されていない方法、国内では行っている施設のほとんどない新しい方法、を含んでおりました。非常に多くの先生が高い関心を持っておられ、講演直後から多数の質問をいただきました。

当院では、自分や家族が前立腺がんにかかってしまったら「名古屋徳洲会総合病院へ行きたい」と言えるような病院にするため、医師・看護師・薬剤師・技師・リハビリなどチーム一丸となって努めています。入院中に、「手術は予想よりも楽だったよ」と告げてくれた患者さんもいれば、経過中にご心配をおかけした患者さんもうらっしゃいます。患者さんひとり一人に個性があり、体格、がんの状態、前立腺の大きさ、組織の固さや柔らかさ、など全員異なります。手術後、全員同じ経過をたどるわけではありません。今後、治療を受けられた患者さん全員に「予想よりも楽だった」と言ってもらえるよう、さらに全力で治療にあたっていきたいと考えています。

泌尿器科医長 黒川 覚史

